

[Date of requ st for xamination] 28.08.1996
[Date of sending the examiner's decision of rej ction] 02.11.1999
[Kind of final disposal of application other than th
examiner's decision of rejection or application convert d
registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of
rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998 Japanese Patent Office

[MENU](#)[SEARCH](#)[INDEX](#)[DETAIL](#)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-69417

(43) 公開日 平成10年(1998) 3月10日

(51) Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 12/00	5 3 1		G 0 6 F 12/00	5 3 1 R
11/00	3 3 0		11/00	3 3 0 B

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-227250

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 8 月 28 日

(71) 出願人 000232092

日本電気ソフトウェア株式会社

東京都江東区新木場一丁目18番 6 号

(72) 発明者 畑山 和雄

東京都江東区新木場一丁目18番 6 号 日本

電気ソフトウェア株式会社内

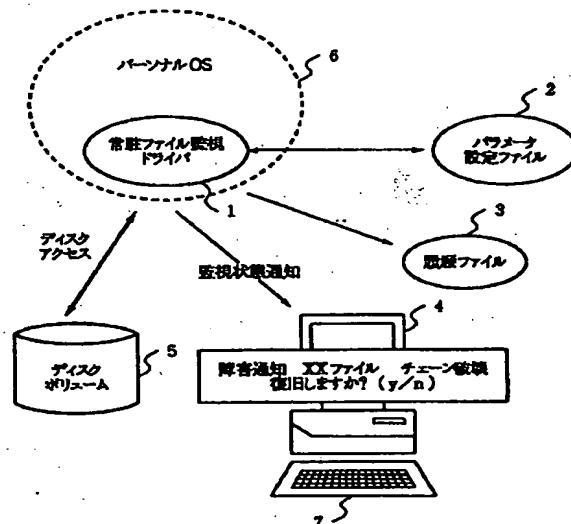
(74) 代理人 弁理士 京本 直樹 (外 2 名)

(54) 【発明の名称】 常駐型ファイル監視方法

(57) 【要約】

【課題】 ファイル破壊を監視する場合、他のプログラムがアクセスされていないときとかバッチ処理的にしか監視できない。

【解決手段】 パーソナルOS 6の中に常時ドライバ1を組み込み、そのドライバに対して設定は、パラメータ設定ファイル2に書き込まれていて、パラメータ値を変えることにより動作モードを変更し、ディスクボリューム5を常時監視し、エラーが発生したらディスプレイ4に状態を表示し、その処理ガイドに従いファイルの復旧を行い、その履歴を履歴ファイル3上に出力する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊が起きた場合、破壊したファイルを復旧させることを特徴とする常駐型ファイル監視方法。

【請求項 2】 オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ディスクアクセスがないタイミングでファイルをサイクリック的にファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊があるときエラーメッセージと処理ガイドをディスプレイに表示して復旧させることを特徴とする常駐型ファイル監視方法。

【請求項 3】 ファイル破壊が起きたときファイル監視プログラムのパラメータ設定ファイルのパラメータによりファイルを復旧させることを特徴とする請求項 1 記載の常駐型ファイル監視方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は常駐型ファイル監視方法に関し、特にパーソナルオペレーティングシステム（OS）に於ける常駐型ファイル監視方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来パーソナル OS 上では、ファイル状態を監視する方法として、バッチ的にユーティリティを実行してチェックする方法、または時間指定による起動が行なわれている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 第 1 の問題点は、従来の技術においてファイルが破壊されていても、復旧ユーティリティをバッチ的に実行して監視するしか方法がなかった。

【0004】 その理由は、常駐型プログラムとして組み込めなかったからである。

【0005】 第 2 の問題点は、従来の技術において、ファイル状態を監視する時、1つの論理ボリュームに対して連続的にしか実行できなかった。かつ、他のプログラムがディスクアクセスされていない状態でしか実行できなかった。

【0006】 その理由は、他のプログラムの処理を妨げるからである。

【0007】 本発明の目的は、ファイルに対する復旧を、障害が発生したら瞬時にファイルを復旧する様にする。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明の常駐型ファイル監視方法は、オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ディスクアクセスがないタイミングでファイルをサイクリック的にファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊があるときエラーメッセージと処理ガイドをディスプレイに表示して復旧させる

ようにあるいはファイル破壊が起きたときファイル監視プログラムのパラメータ設定ファイルのパラメータによりファイルを復旧させるよう構成されている。

【0009】 【作用】 ファイルの監視を常時行っている為、他のジョブを止めてバッチ的に起動する必要がない。

【0010】

【発明の実施の形態】 次に、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0011】 図 1 は本発明の常駐型ファイル監視方法の一実施の形態を示すブロック図である。

【0012】 本発明の一実施の形態は、図 1 に示すように、パーソナル OS 6 の中に常駐ドライバ 1 を組み込む。そのドライバに対しての設定は、パラメータ設定ファイル 2 に書き込まれていて、パラメータ値を変えることにより動作モードを変更できる。

【0013】 ディスクボリューム 5 を常時監視し、エラーが発生したらディスプレイ 4 に状態を表示する。

【0014】 その処理ガイドに従いファイルの復旧を行う。その履歴を履歴ファイル 3 上に出力する。

【0015】 次に、本発明の第 1 の実施の形態の動作について、図 1 を参照して詳細に説明する。

【0016】 常駐ファイル監視ドライバ 1 が、ディスクボリューム 5 をチェックしファイルに異常が発生するとディスプレイ 4 に状態を表示する。オペレータはその対処方法をキーボード 7 から入力し障害が発生したファイルに対して処理を行う。処理を終了したらその履歴を履歴ファイル 3 に残しておく。

【0017】 なお動作（チェック）は CPU、ディスクのアクセスが少ない時に行い、他のジョブの性能劣化を避ける。

【0018】 次に、本発明の第 2 の実施の形態について、図 1 を参照して詳細に説明する。

【0019】 障害時、ガイドメッセージをディスプレイ 4 に表示させず、パラメータ設定ファイル 2 のパラメータにより自動的に復旧させることもできる。

【0020】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明の常駐型ファイル監視方法は、第 1 の効果として、ファイル障害を早急に発見、復旧することができる。

【0021】 その理由は、常駐型プログラムとして組み込まれているからである。

【0022】 第 2 の効果は、他のディスクアクセスを行うプログラムを停止させないで、ファイル状態監視を行うことができる。

【0023】 その理由は、常駐プログラム（ドライバ）は、CPU とディスクが空いている時に実行する仕組みになっているからである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の常駐型ファイル監視方法の一実施の形

態を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 常駐ファイル監視ドライバ
- 2 パラメータ設定ファイル
- 3 履歴ファイル

- 4 ディスプレイ
- 5 ディスクボリューム
- 6 パーソナルOS
- 7 キーボード

05

【図 1】

